

【江田島市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒が1人1台端末を効果的に活用することを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

具体的には、個々の学習進度や理解度に応じた個別最適な学びの実現、協働学習支援ソフトを活用した意見共有や相互評価による協働的な学びの促進、情報活用能力の育成等に取り組みます。

また、「デジタル・シティズンシップ教育[※]」を推進し、デジタルの技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力の身に付けた児童生徒の姿を目指します。

2 GIGA第1期の総括

江田島市では、令和2年度よりGIGAスクール構想の実現に向け、1,278台の端末を導入し、市内全ての児童生徒の端末と通信ネットワークを整備しました。

また、教員によるICT活用のための研修会の充実を図るとともに、2名のICT支援員を配置したほか、関連企業等の専門家を招聘してICTを活用した研修会を実施してきました。定期的に研修を重ねることで、教員の関心が高まり、指導力も向上してきました。

いかなる状況においても、全ての児童生徒の学びをとめず、保障するため、感染症等による学級・学年閉鎖の際には、端末の持ち帰りを実施しました。また、コロナ禍後の家庭学習においても1人1台端末を活用出来るよう端末の持ち帰りを継続しています。なお、自宅にネットワークが整備されていない児童生徒については、モバイルルータの貸出しを行っています。

一方で、学校や教員によるタブレット端末等の活用頻度には差があるため、教員の意識やICT活用指導力の更なる向上が求められています。また、タブレット端末の故障による授業への影響やネットワークトラブルも見受けられたほか、端末の家庭への持ち帰りの際、学習以外での端末利用に関する課題や学校外で破損させた場合の保護者負担の有無など課題も出てきています。

3 1人1台端末の利活用方策

ICT支援員の配置を継続し、タブレット端末を日常的に活用できるよう、教員のICT活用スキルの向上を図ります。児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、1人1台端末を積極的に活用していきます。市内の教員が、一層情報共有できるようICT活用・校務DXを推進していきます。

不登校児童生徒や外国籍の児童生徒、特別な支援を要する児童生徒等に対し、「リモート授業への参加」「課題等のオンライン送付」「翻訳機能等による学習支援」「障害に応じた読み上げやスイッチ操作等支援機能の利用」等、多様な場面での活用に取り組みます。

※「デジタル・シティズンシップ教育」

デジタル社会で責任ある市民として生きていくために必要な知識・技能・態度を育成する教育